



医学部開設一〇〇年記念
Keio University School of Medicine 100th Anniversary



感染症から患者さんを守る

感染症をおこす細菌やウイルス（微生物）は、私たちの目に見えない、やっかいな存在です。

大切なことは、医療者による手指衛生をはじめとした感染対策です。そして患者さんご自身、ご家族や周囲の方にも感染対策に協力していただくことです。

患者さんやご家族、そして医療者、皆さんを感染症から守り、安心して安全な医療を受けていただくためにかけから支えることが感染制御部の重要な役割です。

※感染制御部は、医師、看護師、薬剤師、臨床微生物検査技師と事務スタッフにより形成される、職種横断的な部門です。



広報誌タイトル「すゝめ」とは

タイトルは明治5年から9年にわたって出版された17編を数える福澤諭吉の大ベストセラー『学問のすゝめ』に因んでいます。



すゝめ

患者さんと慶應義塾大学病院をつなぐ
コミュニケーションマガジン

KEIO
UNIVERSITY
HOSPITAL
Communication
Magazine

Vol. 03
Autumn 2017

ご自由に
お持ちください

感染症から患者さんを守る

病院で働くスタッフの基本中の基本。

それが「感染対策」です。

患者さんは病気を治すために病院に来られるのですから、病院で病気になるようにすることは当たり前のことです。しかし、病院には、毎日、たくさんの方がお見えになります。通院される患者さん、入院中の患者さん、ご家族などの面会の方、私たち病院スタッフや学生も含めると、様々な人が病院に集まりますが、人が集まればそれだけ感染がおこりやすくなります。

病院には免疫力が低下して感染症にかかりやすい方や患者さんがたくさんいらっしゃいますし、感染症の方も受診されます。手術のために入院した家族が家に帰ってから発熱した、などということに注意していただくことです。

病院の中では、患者さんを感染から守り、本来の病気の治療に専念できるように対策をはかりたい

と思います。また、抗菌薬を投与される患者さんも多いので薬の効かない菌も見つかりやすくなります。周囲に菌が拡がっていないか検査をさせていただきます。対策にご協力いただくこともあります。抗菌薬が適切に使用されるように検討することも、感染対策の重要な要素です。

医療者が感染から身を守ることが、患者さんを守ることに繋がります。

細菌やウイルス（微生物）は目に見えません。しかし人から人へ、環境から人へうつるものです。これを防ぐためには、まず自分自身を感染から守ることが、患者さんへの感染を防ぐことにつながります。医療者は手指衛生や手袋、エプロン、ガウンなどを着用することで医療者自身と患者さんを守ります。患者さん、ご家族の方も手洗いや咳エチケットを実施することがご自身や患者さんを守ること

につながります。医療者も患者さんも、皆で協力して患者さんが本来の病気の治療に専念できる環境を整えていきたいと思えます。



環境整備大賞の賞状授与

感染制御部では、院内のさまざまな部署での環境整備・感染対策の実施状況を把握するための施設環境ラウンド活動を実施しています。写真は、年に一度感染制御部が清掃スタッフ等とともに、最も整理整頓が行き届いていた病棟を環境整備大賞に投票で選出し、当該病棟の看護師長に賞状を渡している様子です。賞状は、1年間廊下に掲示し患者さんにもご覧いただけます。

よりよい環境で、よりよい医療をおこなうために



感染制御部 部長
長谷川 直樹

病院には様々な検査や治療を受けるためにたくさんの方が通院、入院されます。中には感染症の方や、抵抗力が低下し感染症にかかりやすい方もおられますが、病院で新たな感染症にかかることは避けなければなりません。しかし、目に見えない微生物は診療科に関係なくどこにでも、誰にでもいます。我々の責務は患者さんやご家族だけでなく、病院スタッフ、学生など病院を利用するすべての方を感染症から守り、安全な医療を安心して受けていただくために感染症を制御し、予防や管理をおこなうことです。その基本は手指衛生や咳エチケットなどの感染予防策であり、その啓発と実践をおこなっています。大切なことは病院スタッフだけでなく、病院を利用するすべての方に感染対策について正しくご理解いただき、ご協力いただくことです。一方、我々の体にはフローラと呼ばれる体にとって大切な菌もたくさんいます。薬の効かない菌の出現を避け、フローラを守りながら、感染症の原因菌だけを除去することができるよう、抗菌薬の適正、適切な使用を支援しています。よりよい環境で、よりよい医療をおこなうため、皆さんと共に感染対策を推進してまいります。

～ 皆さんにお願いしたいこと ～



手洗い・手指消毒

外出から帰った時、食事の前、食事の準備をする前、トイレの後には流水と石けんで手を洗いましょう。多くの感染症を防ぐことができます。家庭でも病院でも同様におこなうようにしましょう。

咳エチケット

咳やくしゃみがある方は、マスクを着けてください。しぶきが飛んで、他の方にうつしてしまいます。感染しやすい方は、人ごみに行くときに自分の身を守るためにマスクをするとよいでしょう。

来院時のお願い

熱がある、咳・鼻水など風邪症状がある、下痢・嘔吐などの症状がある方は、患者さんや周囲の人とうつしてしまうことがあります。外来受診の際には、当院スタッフに早めにお声かけください。

ご面会の場合も同じような症状がある方は、ご面会をお控えいただくか、当院スタッフにご相談ください。

また、小学校就学前のお子さんは、成人より感染しやすく、あるいは感染症にかかっていることも多いので、お子さん自身の受診以外での来院は極力控えてくださいますよう、お願いいたします。

入院患者さんへ

感染制御部では感染症診療支援もおこなっています。微生物がおこす疾患、熱が続く疾患について担当医から相談を受けた場合に、感染対策チームがベッドサイドでお話をうかがったり診察をさせていただく場合があります。また感染症の診断や最適な治療について担当医と相談しながら、診療にあたっています。



臨床遺伝学センター 医師
小崎 健次郎

遺伝子診断技術で原因不明の病に光 最適な治療を判断する個別化医療 全2万個の遺伝子を同時に解析

様々な症状があつて、何かしら原因があるはずなのに原因や診断がつかず、大きな病院を訪れても「今は原因不明」という説明を受けておられる患者さんがいらつしゃいます。現代医療の課題の一つです。近年の遺伝学の進歩により、「原因不明」とされてきた患者さんの一部の方の症状は生まれつきの遺伝子の違いによっておきていることが明らかにされつつあります。数年前から全2万個の遺伝子を同時に調べる新しい遺伝子解析技術が利用可能となったことから、原因診断の切り札となると期待されています。

慶應義塾大学病院・医学部では、国の支援を受けて、

この新規技術の臨床応用を進めています。経過についてじっくりお話をうかがい診察をしたのち、遺伝子解析（血液検査）をおこないます。全国から2年間で1000名を超える患者さんが参画され、3割の方について診断を判明させることができました。合併症の軽減や有効性の高い治療法の選択の手がかりとなっています。診断・治療が困難とされるいわゆる難病の分野に「新しい光」が差し始めています。

従来、遺伝学は医学界の中では純粋科学の一分野と位置づけられてきましたが、個別の患者さんの診療に役立つ分野へ大きく成長しています。臨床遺伝学センターは、基礎・臨床医学や診療科の垣根を越えて、難病や稀少疾患の患者さんのお役に立つことを目標として6年前に設立されました。新しい医療を患者さんに届けるべく、センターの専任医師と院内各科の若手医師たちが力を合わせています。

一步先の医療を 目の前の患者さんのために

治療の個別化に向けて

関節リウマチは30～60代の女性に多く見られる病気ですが、最近は寿命が延びていることから高齢者に発症するケースも増えています。同じ病気でも、発症の要因、年齢や病気の状態はさまざまであるため、患者さん一人ひとりに合った「個別化医療」が重要です。一筋縄ではいきませんが、「個別化」に向けた取り組みがすでに進行中です。

その一つが、あらかじめ患者さんの血液を採取して遺伝子解析をおこない、これまでに蓄積した情報に基づいて効果のある薬を予測する方法（リウマチエック3）です。

もう一つは、患者さんが使用している薬剤の量が十分であるかどうかを検査するキット（レミチエックQ）もあります。この検査の結果に基づいて薬剤の増量または変更を判断することが可能です。最近では、関節の痛みや腫れない状態が続いた場合には薬を減量することを考えますが、これらの個別化医療がすすめばさらに多くの方で減量が可能になると思われます。

リウマチエック3は、保険適用外の医療ですが、どちらの検査も患者さんにとつてどのような治療が最もふさわしいのかを判断する有用な個別化医療と言えます。

関節に痛みがある場合は、まずリウマチの専門医を訪ねられることをおすすめします。当院でも、リウマチ・膠原病内科において検査をうけることが可能ですので、気になる方はぜひお役立ていただければと思います。



リウマチ・膠原病内科 医師
山岡 邦宏

スペイン王国王妃陛下来訪

スペイン王国のレティシア王妃陛下が、2017年4月6日当院に来訪されました。山岡医師から免疫統括医療センターのスタッフによるチームアプローチについて、小崎医師から遺伝子診断の仕組み等について説明しました。王妃陛下は、がんの研究や治療、難病治療のグローバルな取組みに高い関心を持たれており、当院の取組みを高く評価されました。



医療・健康について
やさしく紹介する情報サイト

KOMPAS

<http://kompas.hosp.keio.ac.jp>

慶應コンパス

検索

「KOMPAS」は慶應病院の医師、医療専門家によるオリジナルコンテンツ約750件からなる医療・健康情報ウェブサイトです。



スマートフォン画面

KOMPAS「あたらしい医療」では慶應医学・医療の最前線を紹介する記事をほぼ毎月、新規に掲載しています。たとえば、サイト内検索で「遺伝子診断」と入れると次のような内容に触れることができます。

人間の体は60兆個もの細胞からできています。次世代シーケンサーを使った遺伝子検査から難病や診断がつかない病気の解明に役立てるデータが引き出せます。こうした技術は長寿研究にも生かされています。

詳しくは **KOMPAS** を
ご覧ください。

新病院院長就任／新病院棟開設に向けて

新病院棟の完成を大きなきっかけとして、私たち自身も大きく変わろうとしています。



病院長
北川 雄光

さまざまな仕組みを改革し 最良の医療環境をめざす

慶應義塾大学医学部は2017年に開設100年を迎え、その記念事業として新病院棟の建設を進めています。また慶應義塾大学病院は2020年に開院100年を迎えようとしています。同年の建設事業完了に向けた工事のため、現在は患者さんをはじめ、病院をご利用いただいている方々に大変なご不便をおかけしていますが、2018年5月には新病院棟1号館が本格稼働いたします。新病院棟では診療や教育・研究に関するさまざまな仕組みを改革し、これまで以上に患者さんに快適で安心安全な医療を受けていただける環境を確立してまいります。また、次世代を担う人間性豊かな医療人を育てていきたいと思っています。

新病院棟では診療科ごとの垣根を極力取り払われますので、これに向けて国際的な対応ができる機能の充実をおこなっているところです。

「すべては患者さんのために」という姿勢が私たちの基本です。そのために、新病院棟の完成をゴールではなく一つの通過点ととらえ、改めて医療の進め方や患者さんとの向き合い方を原点から見つめ直したいと思います。とはいえ、私たち自身には気づかないさまざまな改善すべき点もあるはずですし、どうぞ、皆様の忌憚のないご意見をお聞かせください。私たちはそれを真摯に受け止め、これまで以上に患者さんと心の通い合う、安心安全な医療をお届けするために不断の努力を重ねてまいります。

慶應義塾大学病院 病院長 北川 雄光
(2017年8月1日就任)



を確保し、日本だけでなく世界の医療を先導していくことが私たちの使命であると考えています。

特に臨床研究中核病院としては、全国で11病院に認定が増えた現在でも私立大学病院として唯一の存在となっています。私たちには、新しい医療を自ら作り出すことに加え、周辺の大学や病院が新たな医療を臨床研究等を通じて推進していく中で、さまざまな機能を提供する役目があります。言い換えれば、そのミッションを遂行することで、当院の患者さんに対して常に高水準の最先端医療を提供させていただくことができるのではないかと考えます。

また、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが隣接する新国立競技場を舞台として開催

い、関連のある診療科が「クラスター」を形成して、ワンフロアに集結できるようなデザインにしました。関連する複数診療科の医師、看護師、薬剤師をはじめとする医療従事者が一堂に会することでコミュニケーションも促進され、さまざまな併存疾患を抱えた患者さんの診療をさらに安全に遂行できるものと考えています。すべての領域の専門家が集結した高度な医療技術を有する総合病院の強みを最大限に発揮して、高齢化社会において増加している複数の疾患を抱えた患者さんの治療をどこよりも適切かつ安全におこなっていききたいと思っております。

常に高水準で最先端の医療を提供できるように

当院は、特定機能病院^{※1}であると同時に臨床研究中核病院^{※2}であり、地域のがん診療連携拠点病院^{※3}でもあります。そうした中で、医療体制の安全

メディカルストリート



特別病室



外観全景

一般病棟ラウンジ



新病院棟 完成 予想図

- ※1 特定機能病院とは
高度の医療を提供するとともに高度な医療に関する研究・開発・評価・研修などをおこなう機能を有する医療機関のこと
- ※2 臨床研究中核病院とは
日本発の革新的な医薬品・医療機器・医療技術の開発に必要な質の高い臨床研究や治験を推進するため、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的役割を担う医療機関のこと
- ※3 がん診療連携拠点病院とは
全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるように他のがん診療連携拠点病院等と協力し、情報共有や相互評価をおこなうがん診療の質向上をめざす医療機関のこと

Q 入院して、病棟に自動販売機が無い、冷蔵庫を個々に使えないなど不便を感じました。

A ご意見ありがとうございました。2018年5月開院予定の新病院棟では、各階の病棟ラウンジに自動販売機の設置を予定しています。また、各ベッドに備え付けの冷蔵庫を設置いたします。

Q この広報誌への意見や感想は、どこに知らせたら良いですか？

A 第3号用の「アンケート用紙」を用意しましたので「ご意見箱」にご投函ください。「ご意見箱」は、外来や病棟エレベーターホール等各所に設置しています。また備付けの「ご意見・ご要望」用紙をご利用いただいても構いません。

Information

「患者サロン」開催

患者サロンは、がん患者さんとご家族、ご友人を対象としたセミナーや交流会を定期的に開催しています。どなたでも、ご参加いただけます。（参加費・無料）

開催日	テーマ	講演	交流会	時間
11月16日 (木)	がんと栄養 ～がんに負けない体づくり～	○	○	午後2時00分～ 午後4時00分
2018年 1月23日(火)	がん治療とお金	○	○	午後2時00分～ 午後4時00分

お申し込み・
お問い合わせ

がん相談支援センター
03-5363-3285(直通)

「患者さん満足度調査」実施の案内とご協力をお願い(2017年度)

当院では、日ごろより患者さんにストレスを感じることなく治療に専念していただけるよう医療周辺環境整備に努めてまいりました。このほど、更なる改善のために「患者さん満足度調査」を実施いたします。調査回答のご協力をお願いいたします。

調査要領

調査期間…………… ①病棟部門：10月16日(月)～10月29日(日)

②外来部門：10月26日(木)、27日(金)

・午前8時30分～午後3時00分

対象患者さん… ①調査期間中に退院・転院される入院患者さん

②調査時間内に外来を受診される全患者さん

配布方法…………… ①調査用紙と封筒を病棟看護師かクラークが手渡し配布いたします。

②調査用紙のみを正面玄関、内科、外科、耳鼻咽喉科それぞれの受付において配布いたします。

回収方法…………… ①病棟と入院会計係に設置した回収箱に、調査用紙を封筒に入れてご投函ください。

②外来計算窓口②番前、3号館南棟2階会計窓口前などに設置した回収箱に調査用紙をご投函ください。

お問い合わせ

患者総合相談部(患者相談窓口)
03-5363-3638(直通)

ピクトグラムで知る患者さんに必要な施設情報

ピクトグラム紹介



多目的トイレ



オストメイト
対応設備



ベビーチェア



ベビーシート



ベビーベッド



介護ベッド

ホールや鉄道の駅など公共空間で目される「非常口マーク」や「AEDマーク」のような視覚記号(サイン・絵文字)をピクトグラムと言います。病院では、一般的なピクトグラムに加え、患者さんが病院を安心安全にご利用いただけるよう、例えば、オストメイトや介護ベッドなどの位置を「フロア案内図」の中にピクトグラムを用いて紹介しています。現在は、この「案内図」をエレベーターホールなど院内の主要な場所に設置しています。なお、「院内施設のご案内(フロアマップ)」は、病院ホームページにも掲載していますので、来院前に必要な施設の位置をご確認いただくことが可能です。

〈受付時間・休診日〉

外来受付時間 午前8時40分～午前11時00分

面会時間 (平日)午後3時00分～午後7時00分
(土・休日)午後1時00分～午後7時00分

休診日 日曜日、第1・3土曜日 / 国民の祝日・休日 / 年末年始(12月30日～1月4日) / 慶應義塾の休日(1月10日、4月23日)

〈診療担当医表〉

このQRコードをスマートフォンなどで読み取っていただくと診療担当医表がご覧になります。なお病院入り口脇の電子掲示板にも掲載しています。

